

◎高崎光司先生によるチェックポイント

- 藤ノ木古墳からの出土品 鞍金具=中国・朝鮮半島からの輸入品か

- 飛鳥大仏 6世紀前半の北魏時代の影響 大仏=鼻が大きい
目が杏仁形
眉が大きく反る
身体の形がかたい
鞍作止利=馬具制作集団

- 飛鳥寺の瓦 百済の影響=蓮の花=花組と星組…わかりますか
行基ぶきと玉縁ぶき

- 渡来人 日本の土器と半島の土器

- 山田寺 蘇我・倉・山田・石川・麻呂 完成に40年
興福寺によって奪いとられた仏頭

- 吉備寺廃寺 舒明帝のとき(7世紀前半)の最初の勅願寺=百済大寺

- 寺院の建物配置 舍利信仰<塔>→仏像信仰<金堂>→法話<講堂>

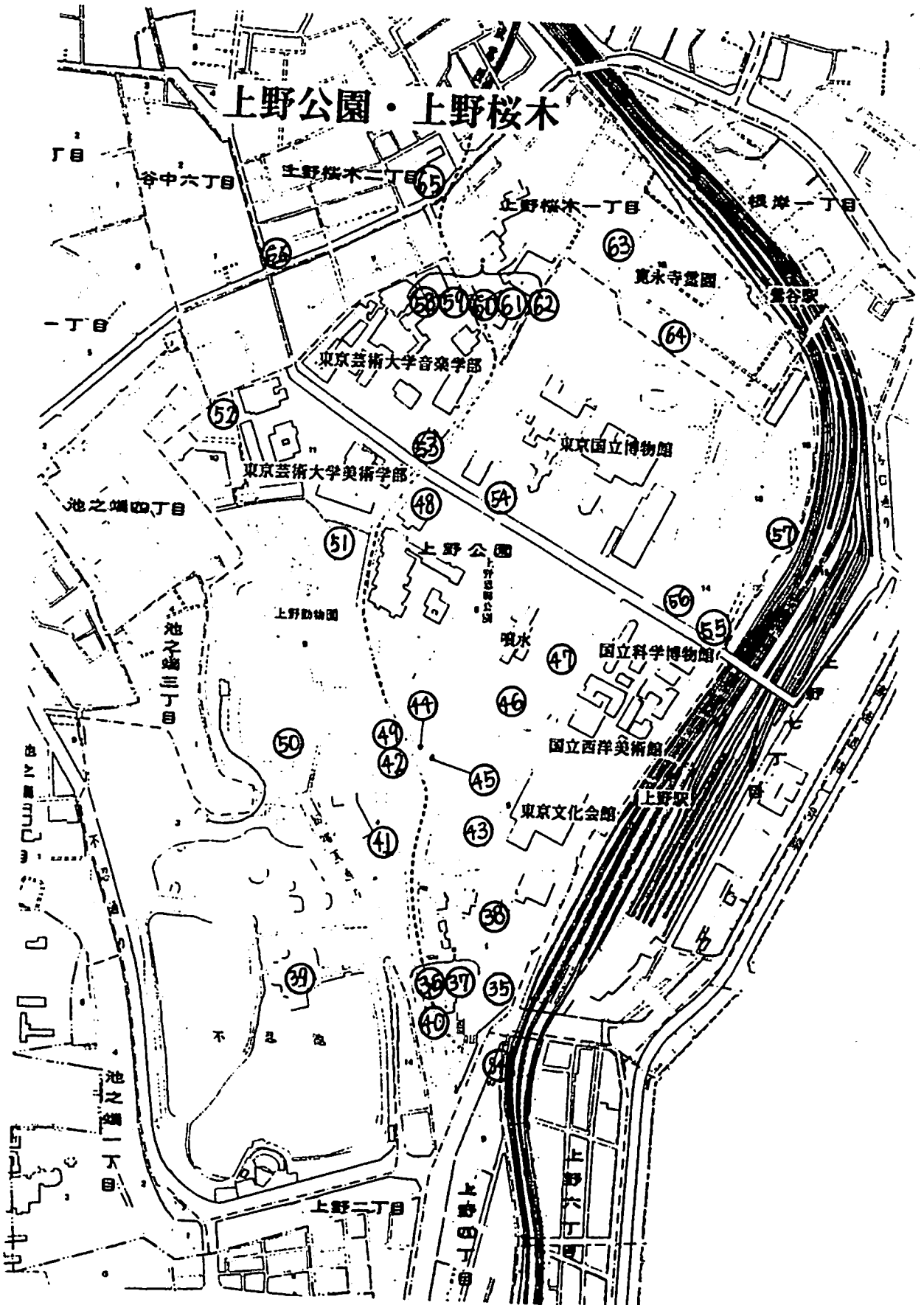
- 酒船石遺跡 亀形石=みそぎの行事を行なったか

- 狂心(たぶれところ)の渠(みぞ)=齊明天皇

- 石神遺跡=迎賓館 水落遺跡=水時計

- 藤原京 わが国ではじめての都市

上野公園・上野桜木





36

清水観音堂きよみづかんのんどう（重要文化財）

台東区上野公園一番

清水観音堂は、寛永寺を開創した天海が京都清水寺を模して寛永八年（一六三一）に創建した。当初、現在地より一〇メートル余り北方の摺鉢山上にあったが、元禄七年（一六九四）この地へ移築し、現在に至っている。堂宇は、桁行五間、梁間四間、単層入母屋造り、本瓦葺。とくに不忍池に臨む正面の舞台造りは、江戸時代より浮世絵に描かれるなど、著名な景観である。

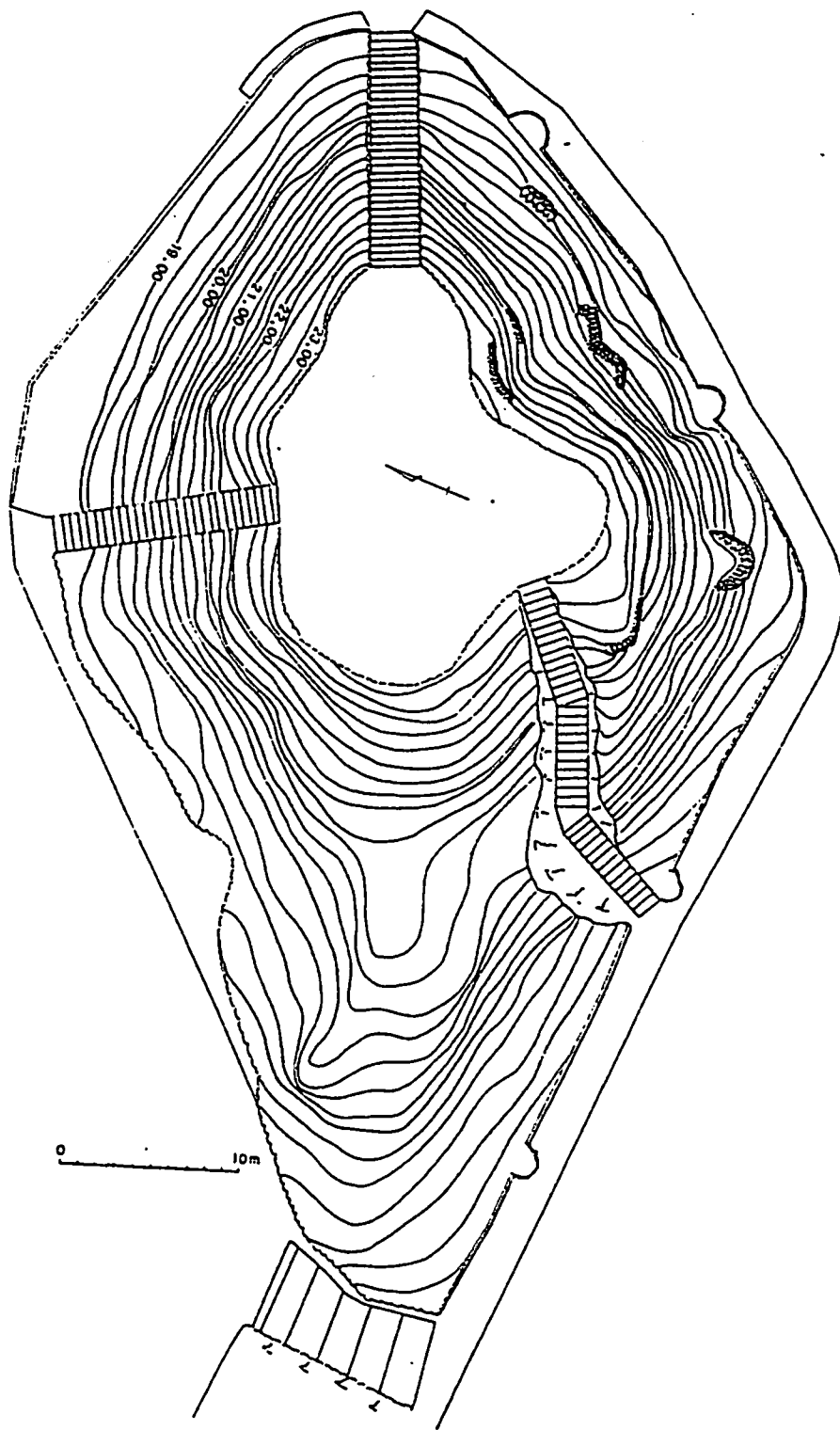
近年老朽化が目立ち、平成二年より全面的な解体・修復工事を実施、平成八年五月に完成した。この間、移築年代を元禄九年とする定説をくつがえす、元禄七年の棟札が発見されるなど、さまざまな事実が明らかとなっている。

本尊は千手観音坐像で、京都清水寺より奉安したものの。秘仏で平常は厨子内に安置するが、毎年二月初午の日にのみ開扉され、多くの参詣者が訪れる。

脇本尊の子育観音は、子供に関するさまざまな願いをもつ人々の信仰をあつめ、願い事が成就した際には身代わりの人形を奉納する。毎年九月二十五日には、奉納された人形を供養する行事がある。

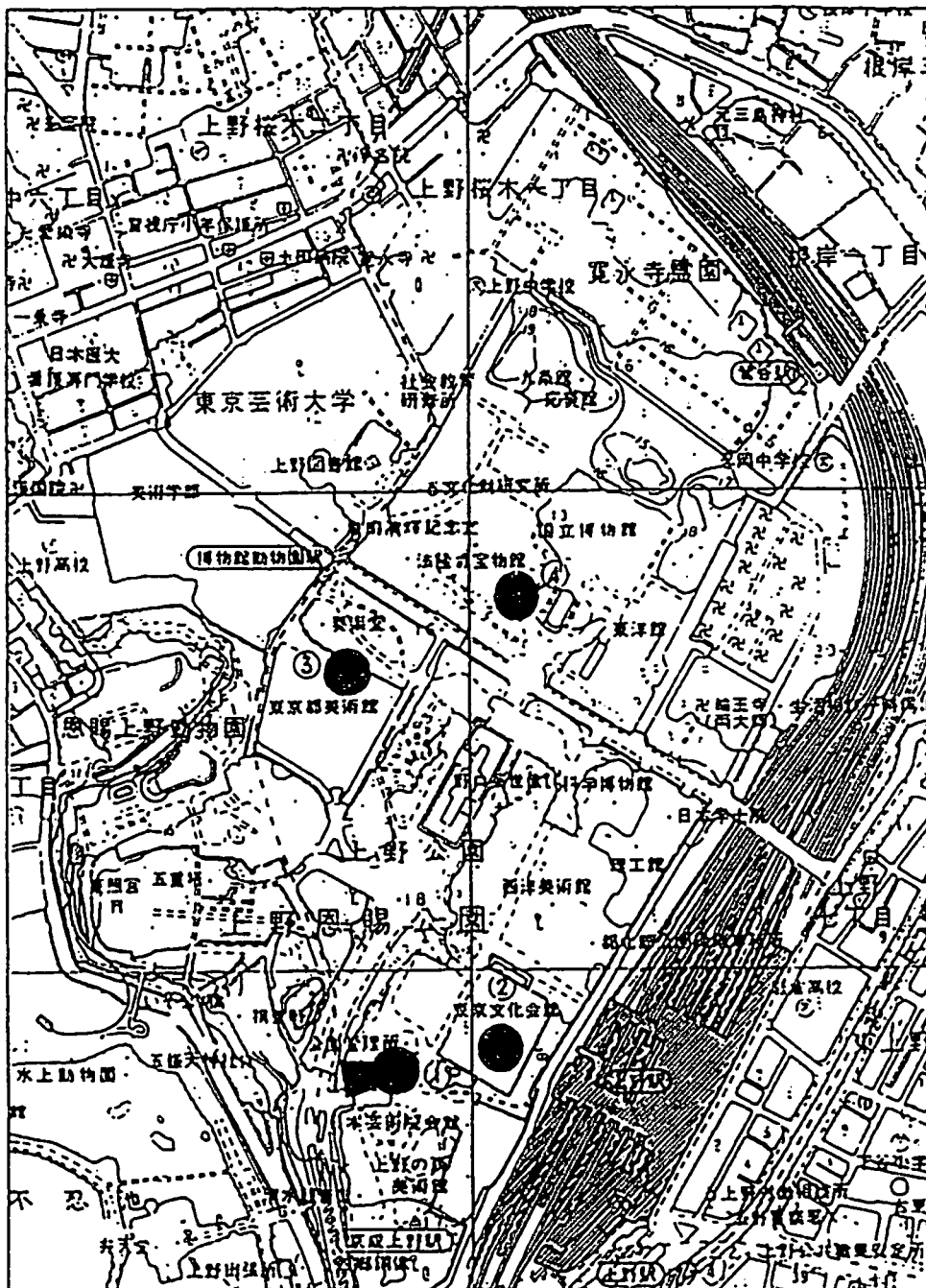
平成十年三月

台東区教育委員会



第20回 台東区摺鉢山古墳調査
都心部の遺跡-貝塚・古墳・瓦戸- 東京都教育庁社会教育課文化財課編集発行 H60.3

図7 上野台の古墳の分布図 (第1、2、3、4号墳)



台東区史 通史編I 台東区誌編輯委員会 台東区刊 H9. 6

1. 摺鉢山古墳 (台東区上野公園5・前方後円墳・70m・6世紀?)

上野台古墳群の主墳か。埴輪片採取。

上野台古墳群として知られているものは次のとおり。

- ①摺鉢山古墳②桜雲台古墳 (現東京文化会館用地内。円墳。埴輪片採取)
- ③蛇塚 (東京都美術館用地内。須恵器片採取) ④表敬館古墳 (現東京国立博物館表敬館敷地内。直刀、鈎、鉄鏃出土)



42 お化け燈籠どうろう

台東区上野公園四番

佐久間大膳亮勝之が東照宮に寄進した石造の燈籠で、

奉寄進佐久間大膳亮平朝臣勝之

東照大権現御宝前石燈籠

寛永八年辛未孟冬十七日

と刻字し、寄進者・寄進年月を知ることができる。寛永八年（一六三二）当時、東照宮は創建して間もなく、社頭には、現存の大鳥居・銅燈籠・石燈籠などは、まだわずかしか奉納されていなかった。勝之は他にさきがけて、この燈籠を寄進したのである。

勝之は、織田信長の武將佐久間盛次の四男。母は猛將柴田勝家の姉という。信長・北条氏政・豊臣秀吉、のち徳川家康に仕え、信濃国川中島ほかで一万八千石を領した。

燈籠の大きさは、高さ六・〇メートル、笠石の周囲三・六三メートルと巨大で、その大きさをゆえに「お化け燈籠」と呼ぶ。京都南禅寺・名古屋熱田神宮の大燈籠とともに、日本三大燈籠に数えられる。

平成八年七月

台東区教育委員会



41 時の鐘ときかね（寛永寺）

台東区上野公園四番

花の雲 鐘は上野か 浅草か

芭蕉が詠んだ句はこの鐘のことである。

時の鐘は、はじめ江戸城内で撞かれていたが、寛永三年（一六二六）になって、日本橋石町三丁目に移され、江戸市民に時を告げるようになったという。元禄以降、江戸の町の拡大に伴い、上野山内・浅草寺のほか、本所横川・芝切通し・市谷八幡・目白不動・目黒円通寺・四谷天竜寺など、全部で九か所に置かれた。

初代の鐘は、寛文六年（一六六六）の鑄造。銘に「願主 柏木好古」とあったという。その後、天明七年（一七八七）に、谷中感応寺（現、天王寺）で鑄直されたものが、現存の鐘である。正面に「東叡山大銅鐘」、反対側には「天明七丁未歳八月」、下に「如来常住、無有變易、一切衆生、悉有仏性」と刻まれている。

現在もなお、鐘楼を守る人によって、朝夕六時と正午の三回、昔ながらの音色を響かせている。

なお、平成八年六月、環境庁の、残したい「日本の音風景一〇〇選」に選ばれた。

平成八年七月

台東区教育委員会



44 グラント將軍植樹碑^{しょうぐんしょくじゅひ}

台東区上野公園八番

明治十年（一八七七）から同十三年にかけて、グラント將軍は家族同伴で、世界を周遊した。その際、来日。同十二年八月二十五日、ここ上野公園で開催の大歓迎会に臨み、將軍はロウソン檜、夫人は泰山木を記念に植えた。植樹の由来が忘れられるのを憂い、昭和四年八月、この碑を建設。碑は正面に將軍の胸像を刻み、向かって右側に和文、左側に英文で、將軍の略歴、日本滞在中の歓迎の模様、植樹の由来を記している。胸像下部には、英語で、將軍の言葉「平和を我等に」の文字を刻む。

グラント將軍のフルネームはユリシイズ・シンブソン・グラントという。北軍の義勇軍大佐として、南北戦争に従軍。戦功を重ね、のち総司令官となり、北軍を勝利に導いた。明治二年、アメリカ合衆国大統領に選ばれ、同十年まで二期在任した。いま、將軍植樹の木は大木に成長している。

平成四年十一月

台東区教育委員会



49

上野東照宮うえのとうしょうぐう（重要文化財）

台東区上野公園九番

藤堂高虎は上野山内の屋敷の中に、徳川家康を追慕し、家康を祭神とする宮祠を造った。これが上野東照宮の創建といわれている。あるいは、寛永四年（一六二七）、宮祠を造営したのが創建ともいう。正保三年（一六四六）、朝廷は家康に「東照宮」の宮号を贈り、それ以後、家康を祭る御宮を東照宮と呼ぶようになったのである。

現在の社殿は、慶安四年（一六五二）、三代將軍家光が大規模に造り替えたもの。その後数回、修理を加え、現在に至る。社殿の構造は、手前から拝殿・幣殿（石の間ともいう）・本殿からなり、その様式を権現造りという。社殿は東京都内でも代表的な、江戸時代初期の権現造り。華麗荘嚴を極め、金色堂とも呼ぶ。

本殿・拝殿・幣殿は、唐門・透塀とともに構造・様式がすぐれ、貴重であるので、国の重要文化財に指定されている。参道入口の石造明神鳥居、唐門前に並ぶ銅燈籠五十基も国指定の重要文化財である。

平成八年七月

台東区教育委員会

- 資料 ○別途表示のもの以外：たいとう名所図会史跡説明板ガイドブック
台東区教育委員会文化事業体育課文化財担当編刊 H11. 10
- 最後の「上野之杜絵図」：上野のお山を読む（上野の杜事典） 上
野の杜事典編集会議編 谷根千工房刊 1995. 9



45

こまつのみやあきひとしんのうどうぞう
小松宮彰仁親王銅像

台東区上野公園八番

彰仁親王は伏見宮邦家親王の第八王子。安政五年（一八五八）京都仁和寺に入って純仁法親王と称し、慶応三年（一八六七）勅命により二十二歳で還俗、東伏見宮嘉彰親王と改称した。同四年一月の鳥羽・伏見の戦に、征東大將軍として参戦。ついで会津征討越後口総督となり、戊辰戦争に従軍した。明治十年五月、西南戦争の負傷者救護団体として、博愛社が創立されると、九月その総長に就任した。同十五年には、小松宮彰仁親王と改称。同二十年、博愛社が日本赤十字社と改名すると、総裁として赤十字活動の発展に貢献した。同三十六年一月十八日、五十八歳で没。

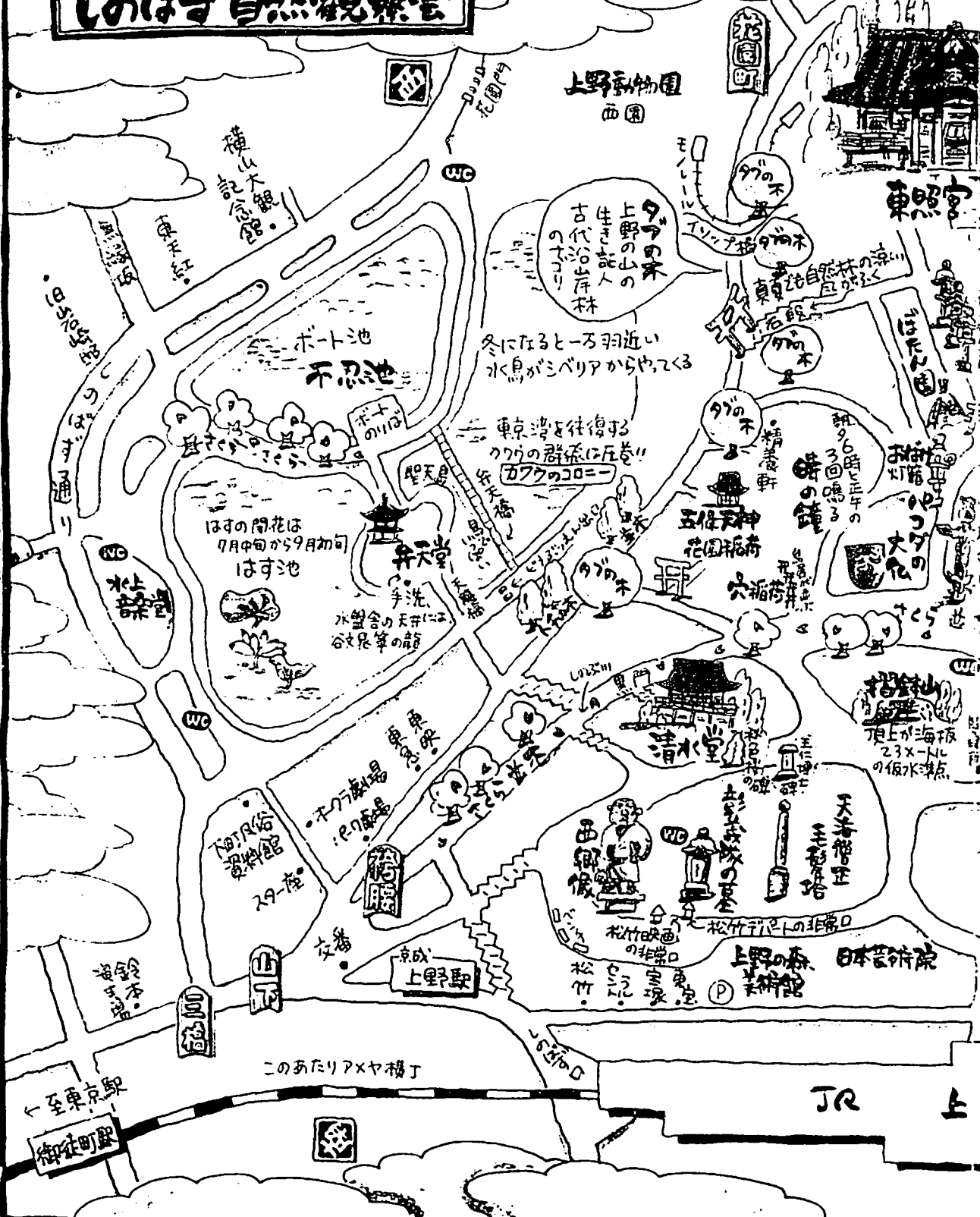
銅像は明治四十五年二月に建てられ、同三月十八日、除幕式が挙行された。作者は文展審査員の大熊氏廣。『下谷區史』は当地に建てた理由について、寛永寺最後の門跡・輪王寺宮公現法親王（のちの北白川宮能久親王）の兄宮であったことに因んだのだらうと推察している。

平成八年七月

台東区教育委員会

上野公園絵図

しのばず自然観察会



清水坂

② 上野高校

護国院
谷中七福神のひと
大黒天

抹茶がめろ
和菓子の店
・利根林堂



東京芸大 ②

真赤に紅葉が
ハセの葉を通し
日差しが
ホレホレに美しい



東京最古の赤い水の建物
(旧教育博物館書庫)

寛永寺

動物園
旧王門
川の流れ
動物園の
木の向かい
の跡に見え

明治39年の建物
上野動物園
用田清輝
記念館
午後閉館

上野中 ②

五重塔
動物園と東照宮の
不思議な境線



東京都
美術館
市民の力で復活した
最古の木造音楽ホール

京成
博物館
動物園駅

国立文化財研究所

旧田川池田屋敷表門

東が谷表門

遊園地
小森像

子供広場

おどろきの塔

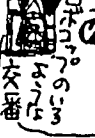


ボート像

ベニヤにはおじさんとおババが6:4の割合



朝には近所の人々が体操に集まる



野口英世

新しくな、正
30ナガスクジ

東洋館



東京
国立博物館
エリヤの大木

東京
国立博物館

待合屋

東が谷表門

寛永寺
豊園



↑ 五日線里駅

ハトが
117はひ

野球場

東京文化
会館

国立西洋
美術館

蒸気
海軍
博物館

国立科学
博物館



西大師
尊王寺
寛永寺旧本坊表門

豊園中 ②

● 上野公園案内所
カネキラスカ
みじりり山像

もとは山下にあった
戦後復興の
シンボル
日本堂主
会館

● 緑の相談所
1777があ、2と絆かに
手いなりとある一ふい

公園口

(P)

(P)

野馬



史跡めぐり
月 日 講演会参加申込み

上記の越谷市郷土研究会主催行事に参加を申込み
ます。

ご住所

お名前

お電話

お一人、一枚ずつ、お書きください。ハガキによる
お申込みは不要となります。

史跡めぐりとして、みんなで行きたいところ
場所がございましたら、ご記入ください

越谷市郷土研究会

◎第306回史跡めぐり◎秩父札所繪開帳34ヶ所めぐり② ※家族友人参
加可(18) 神門寺(26) 円福寺(27) 大淵寺(28) 橋立寺(29) 長泉院(30)
法雲寺(13) 慈眼寺(14) 今宮坊(16) 西光寺(17) 定林寺(18) 龍石寺
(20) 岩上堂 ◎日時 平成14年10月11日(金) ※参加費6500円(バス
・昼食代等) ※集合 JR南越谷駅前・あさひ銀行前 午前7時20分
◎9月27日(金) 迄にハガキで住所・氏名・電話番号を明記して左記へ。
〒34310806 越谷市宮本町5121017 堤竹宏吉
◎前回不参加の方も参加可※前回参加の方も改めて申込み必要◎友人と同じ
バス希望の場合は同じハガキでお申込みのこと 申込み多数の場合は抽選
参加決定は9月28日(土)とし確定後ご連絡します(参加費は実施日持参)
※3回目は11月12日に実施予定 ◎個別のご朱印集印は不可・納経済の朱印
帳(1万2千円)を購入ください 満願軸等幹旋可
連絡先 堤竹96211542 西村97812927 ◎越谷市郷土研究会